

ダイヤモンド買取りマニュアル

DIAMOND TRADING GUIDE



目次

[初級編]

ダイヤモンド買取りの手順	p 3
ルーペの使い方	p 4
ダイヤモンド宝飾品の見方	p 5
ダイヤモンドであるかの真贋判定	p 6
鑑定書、ソーティングのチェックポイント	p 7, 8
鑑定機関について	p 9
ダイヤモンドの 4C とは	p 10, 11
写真でみるダイヤモンドグレード	
[カラー]	p 12
[クラリティー]	p 13, 14
[カット]	p 15, 16
4C 以外のポイント	p 17
肉眼レベルで判断できる評価の低いダイヤ	p 18
自己査定（鑑定書なしの場合）の方法	p 19
メレーダイヤの買取り方法	p 20

ダイヤモンド買取りの手順

ダイヤモンドを査定する際はルーペを使えねばなりません。

ダイヤモンドを査定しやすいよう布などでクリーニングする。

製品の重量(何カラットか)を製品の刻印などから確認。
※鑑定書のないルース(裸石)の場合、量りや寸法からカラットをだしてください。

ダイヤモンドであるかの真贋判定
※はじめての場合ダイヤテスターでの判定をお勧めします。

鑑定書の有無を確認

有

- 鑑定書に記載のカラットと製品が同じかを確認
- 鑑定書の写真とダイヤが同じものかを確認
- 製品後、購入後によるダイヤの欠け、キズの確認

- 鑑定書の項目(グレード)の確認
- 鑑定機関名、鑑定年月日の確認
- 4Cの確認
- 蛍光性、サイズ(寸法)、その他の確認

無

- ルーペや肉眼でみてダイヤの 4C、蛍光性、その他の特徴を確認

- お客様の状況、製品の情報を聞き出す

ダイヤ査定価格より買取価格を確認後、買取

ループの使い方

ダイヤモンドを査定するうえで、ループを正しく使えるかがとても重要になります。
キチンとした姿勢でループを使い、そのダイヤの情報を判断できるようになりましょう。

ループを使って対象物を見る

10倍率ループを使用する場合、ループを出来る限り目に近づけ保ち、
対象物(宝石)を注意しながら動かして焦点を合わせます。
その際両腕を脇などにつけることで対象物を安定させることができます。



宝石用10倍率ループ

チェックポイント



ループの使い方

- ループを利き手に持ち、利き目の前にループを近づけ固定します。
※ループを持っている親指の第一関節を利き目の下あたりに軽くあてるとループをうまく固定できます。
- ループを持つ反対の手で、対象物(宝石)をピンセットで掴み、ループの前に持っていき、焦点距離を調整しながら見ます。
※ループをみるときは必ず両目を開けて見てください。
- この時、両腕を脇につけたり肘をテーブルにつける等して、対象物(宝石)を動かないようにしてください。
ループを持つ手や頭は動かさず、宝石を持つ手だけをゆっくり動かしその石の表面、奥、裏側など、いろいろな角度を見ます。

初級編

ループで見て分かる情報

ループで見る際には、宝石の“チェックポイント”をしっかりと把握しておかねばなりません。
下記チェックポイント(特にクラリティのチェックが重要です。)をしっかりと頭に入れて、
正面(フェイスアップ)から斜め、真横(ガードル)など様々な角度からその宝石の情報を收拾しましょう。

チェックポイント

カット

- ゆがみ、対称性
(正面から見る場合)
- ガードルの厚さ、均一性
(真横から見る場合)

クラリティ

- キズの有無
- 欠けの有無
- 内包物の有無
(※角度を斜めに振ると見えやすい)

カラー

- 無色、黄色、茶色など
見た目での判断

その他

- 爪の近くのキズの有無
- 加工処理の有無



正面から見る(フェイスアップ)



斜めから見る



真横から見る(ガードル)

▽ ダイヤモンド製品（ジュエリー）の見方

■ 製品（ジュエリー）の裏の刻印をみる

査定する宝石の大半は製品（ジュエリー）となっております。そこに留っている宝石を見るのは勿論ですが、宝石を止めている素材（地金）にもチェックするポイントがあります。

▶ チェックポイント



刻印の確認事項

- 重量（カラット数）の確認 例：0.536ct
 - 素材の確認 例：k18、pt900 等
 - 販売店の確認 例：ブランド、百貨店等の刻印の有無
- その他にメッセージや誕生石等の刻印が入る場合があります。

▶ 鑑定書が無い場合のチェックポイント

- プラチナの婚約指輪はカラー、クラリティの高いものが多い
- ゴールド枠の場合、カラー査定が難しいためJカラー程度でみるのが妥当
- キズが見つけられなくても輝きのない（曇っている）ダイヤは低評価
- 横から見たときにガードルが厚いものは低評価

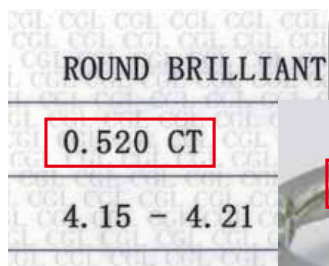
刻印が下記の場合は イミテーションの可能性大

地金素材：シルバー、イミテーション、
真鍮
石目：カラット表記なし

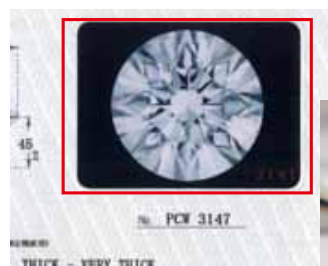
■ 鑑定書との同一性の確認

査定する宝石 / 製品（ジュエリー）に鑑定書がある場合、鑑定書の内容と同一かを確認します。

▶ チェックポイント



鑑定書



鑑定書



- 鑑定書に書いてあるカラットと
宝飾品のカラット刻印が同一かを確認
- 鑑定書の写真の顔と実際のダイヤが
同じものかをルーペを使って確認

▽ ダイヤモンドであるかの真贋判定

■ ダイヤモンドであるか(真贋)の判定

買取の現場では稀にイミテーションに出会うことがあります。ダイヤであるかの真贋判定は、ダイヤモンドの特徴を把握することで判定が出来るようになります。

▶ チェックポイント



ダイヤモンドの特徴

- ファセット(面)とファセット(面)のエッジの稜線がシャープである
- 天然の証である内包物が見える
- 鋭利な輝き



ジルコン(イミテーション)の特徴

- 硬度が低いためファセット(面)とファセット(面)のエッジの稜線がだれて見える(線が太い、曲がっている)
- 内包物が見えない
- 輝きが鈍い(テリがやわらかい)

初級編

■ ダイヤテスターの使い方(ダイヤモンドセレクターⅢの場合)

最近では人工宝石でも目視判別するのが難しいダイヤも出てきます。ダイヤモンドテスターを使えば瞬時に本物、偽物が判別できます。

- ① スイッチを入れ、点滅が終わるまで待ちます。
- ② 対象物のカラットにメモリを合わせる。
- ③ キャップをはずし、裏側の銀色の部分を指で触れながら対象物を先端にあてて。
(その際、地金の部分や身体に触れてしまうとエラー音が鳴ります。)
- ④ メモリが反応し赤ランプのダイヤモンドまでいくと音が鳴ります。
(稀にダイヤであってもダイヤまでメモリが達しない場合があります。)
ジルコンでは1メモリ程度しか動きませんので差がハッキリです。



このテスターでは他の色石や天然モアッサナイトは判定できません。
判断が難しい場合はお問い合わせください。

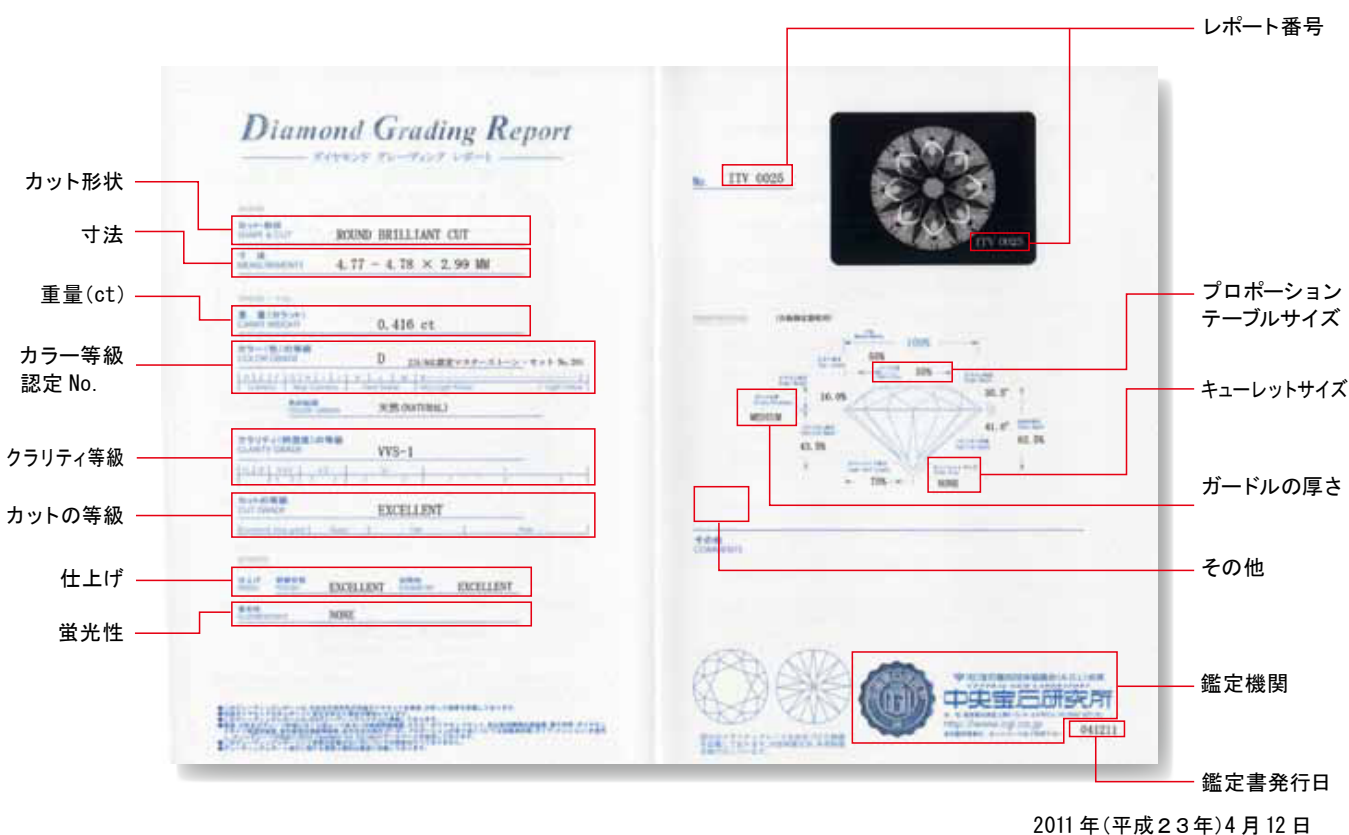
▽ 鑑定書・ソーティングのチェックポイント

鑑定書に書かれた、記号や文字が何を意味し、何を表すのか読み取ることができれば、ダイヤモンドの品質の良し悪し、価格の適正さが分かります。

■ 鑑定書(グレーディングレポート)の見方

ダイヤモンドの品質を保証する鑑定書ですが、発行された年代によって評価が大きく変わる場合があります。また、鑑定機関によって鑑定書のフォームが一部異なる場合があります。

▶ チェックポイント

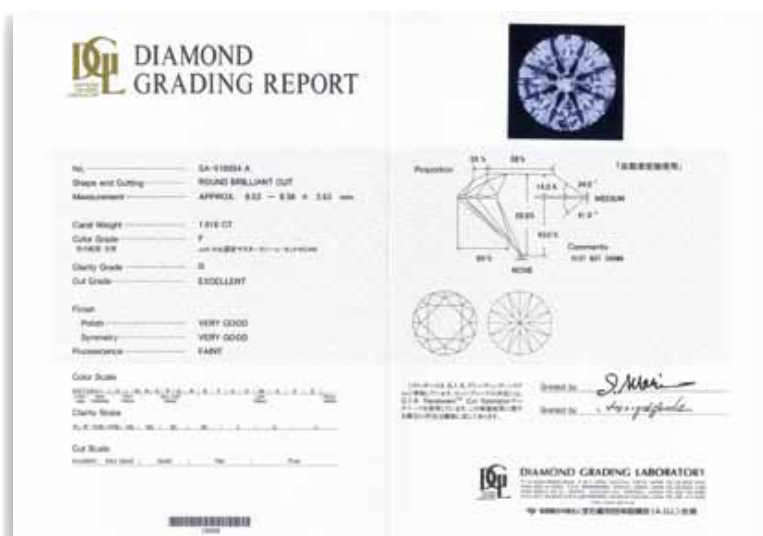


■ ソーティング(簡易鑑定書)の見方

▶ チェックポイント



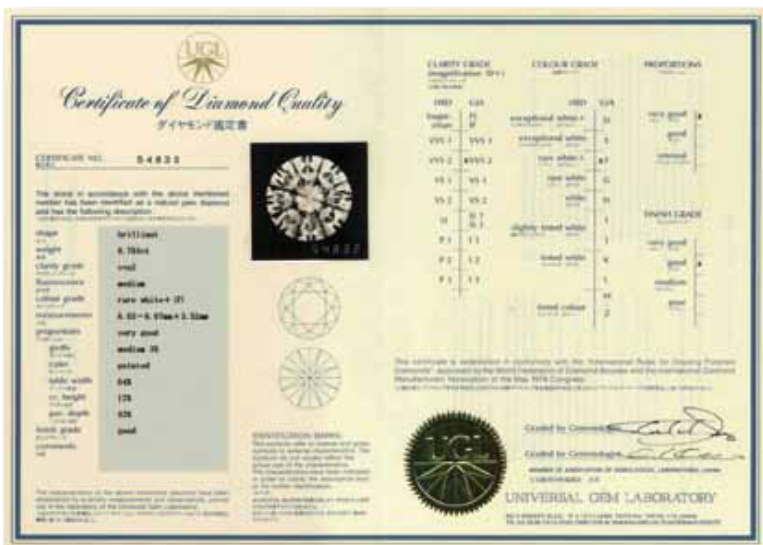
●鑑定書例



- 鑑定機関 : DIAMOND GRADING LABORATORY
(ダイヤモンド・グレーディング・ラボラトリー)
- 発行日 : 2000 年(平成12年)9月8日
- 鑑定機関ランク※: ランク B



- 鑑定機関 : 日米宝石鑑別センター
- 発行日 : 不明
- 鑑定機関ランク※: ランク B



- 鑑定機関 : UNIVERSAL GEM LABORATORY
(ユニバーサル・ジェム・ラボラトリー)
- 発行日 : 不明
- 鑑定機関ランク※: ランク C

▽ 鑑定機関について

日本国内では、現在 500 社ほどの鑑定機関があるといわれています。

その中でも、国際的かつ正確で信頼のおける鑑定機関は数えるほどしかありません。

日本国内での主な鑑定機関

ランク基準 A

- GIA USA
- CGL (中央宝石研究所) 2010年以降
- AGT ジェムラボラトリー

ランク基準 B

- CGL (中央宝石研究所) 認定NOあり **-5%**
- 全国宝石学協会 **-5%**
- AGL加盟機関発行の鑑定書 **-10%**
- CGL (中央宝石研究所) 認定NOあり **-10%**

ランク基準 C

- CGL (中央宝石研究所) 認定NOなし 1ctUP
※ F~Hカラーの大粒注意！ **-25%**
- 全国宝石学協会 SI 2クラス **-15%**
- AGL加盟機関以外の鑑定書 **-20%**

ランク基準 D

- 全日本宝石研究所(ココ山岡) **-30%**
※ ガードルが厚いものが多い！注意！
- ジュエリーマキ(自社鑑定) **-20%**
- 英語表示のみの鑑定書 **-20%**
※ よく読むとダイヤでないことも！注意！
- 手書きの鑑定書 **-20%**

価格ダウン目安

鑑定書の鑑定機関や作成した年等によって信頼性や信憑性が若干異なります。

鑑定機関の横にある **-20%** ←このマークはダウンする目安を表示しています。

実際には、実物を確認して鑑定書と同じの場合は、ダウン査定はありません。

海外での主な鑑定機関

ランク基準 A

- GIA USA
- HRD ※国内ではほとんど見かけません。
- IGI※国内ではほとんど見かけません。

ランク基準 C

- EGL ※ヨーロッパの鑑定書です。

● “ランク基準 A” の鑑定機関が現在のスタンダードな鑑定機関となります。

● ランク基準が下の鑑定機関になると鑑定が甘くなり、以下のような例がおこります。

(例1) “ランク基準 D” で鑑定した **G カラー** が



“ランク基準 A” で鑑定すると **J カラー** と判断されるケース

(例2) “ランク基準 D” で鑑定した **SI2 クラリティ** が



“ランク基準 A” で鑑定すると **I1 クラリティ** と判断されるケース

● 正確な査定を希望の場合は “ランク基準 A” の鑑定機関での再鑑定をお進めします。

▽ ダイヤモンドの“4C”とは

4C とは **C**arat(カラット)**C**olor(カラー)**C**larity(クラリティ)**C**ut(カット)の頭文字である4つの“C”からなるダイヤモンドの価値を評価する用語です。

■ Carat(カラット)

「カラット」とはダイヤの「重量」を表す単位です。サイズではないので同じカラットでも直径が違ふ事もあります。カラットによって価格が大きく変動しますので4Cの中でも特に重要です。

●ダイヤモンドのカラット(重量)と直径(実寸)の目安

													
ct (カラット)	2	1.75	1.50	1.25	1	0.875	0.75	0.625	0.50	0.375	0.25	0.125	0.06
mm (直径)	8.2	7.8	7.4	7.0	6.5	6.2	5.9	5.55	5.15	4.68	4.1	3.25	2.58

■ Color(カラー)

「カラー」ダイヤモンドの色味を表します。色味は基準石となる「マスターストーン」を用いて評価され、無色透明であればあるほどDカラーに近づきます。

また、無色透明以外にもブラウン、ピンク、ブルー、ブラック等の特殊な色のダイヤモンドもあります。

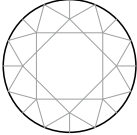
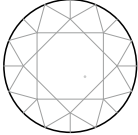
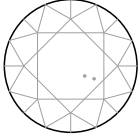
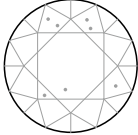
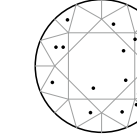
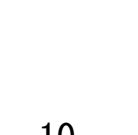
●カラー評価スケール

											
D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N Z	
無色			ほぼ無色				かすかに黄色			明るい黄色	非常に明るい黄色

■ Clarity(クラリティ)

ダイヤモンドに含まれる内包物の割合や表面のキズ等の評価を表します。天然のダイヤには微細な内包物やキズが存在する為、鑑定機関ではダイヤを10倍率のルーペ / 顕微鏡で査定し評価をつけます。

●クラリティースケール

FL	IF	VVS1	VVS2	VS1	VS2	S I1	S I2	I1	I2	I3
10倍拡大で包有物が発見できない	10倍拡大で発見が困難な包有物	10倍拡大でやや発見困難な包有物	10倍拡大で発見が容易な包有物	肉眼で容易に発見できる包有物						
										

▽ ダイヤモンドの“4C”とは

■ Cut(カット)

ダイヤを輝かせる上で最も大切な要素です。カットが優れているほど、強く美しい輝きを放ちます。
カット評価の対象となるのは、ラウンドブリリアントカット(58面体)のダイヤモンドと決まっています。

● カット評価スケール

カット評価は、Excellent～Poor の5段階でランク付けされることになっています。

Excellent(エクセレント)			Very Good (ベリーグッド)	Good (グッド)	Fair (フェア)	Poor (プア)
3Excellent H&C (トリプルエクセレント ハート&キュービット)	3Excellent (トリプル エクセレント)	Excellent H&C (エクセレント ハート&キュービット)				

● 3Excellent(トリプル・エクセレント)

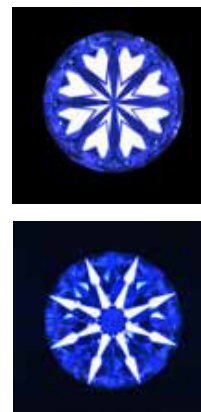
カットの総合評価「プロポーション」と仕上げ要素の「ポリッシュ」、「シンメトリー」の3項目が「Excellent」の評価を得たダイヤモンドを「トリプル・エクセレント」と呼びます。

● Excellent H&C(ハート&キュービット エクセレント)

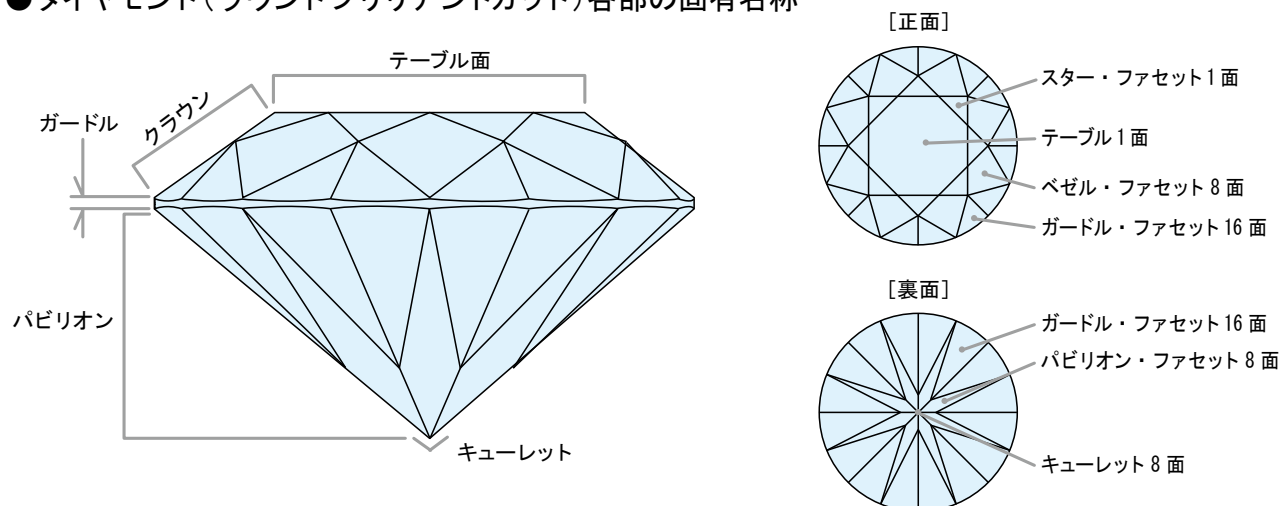
カットの評価のエクセレントに加え、「ポリッシュ」「シンメトリー」の双方かどちらかが Very Good 評価で特殊な機器によって映し出したハートとキュービットのパターンの評価が一定以上クリアしたもの

● 3Excellent H&C(ハート&キュービット トリプルエクセレント)

上記のハート&キュービットエクセレントの中で、フィニッシュの「シンメトリー」と「ポリッシュ」がエクセレントの評価を得たもの。



● ダイヤモンド(ラウンドブリリアントカット)各部の固有名称



● ラウンドブリリアントカット以外のカット



ハートシェイプカット



オーバルカット



プリンセスカット



エメラルドカット

▼ 写真で見るダイヤモンドグレード[カラー]

カラー：買取の際の注意点

- 枠に付いているものがほとんどです。従って 100%の判定が難しく、正確な査定が必要な場合は枠から外して査定してください。
- ゴールド枠の製品は地金の色が移り込み色の評価が困難ですので、査定の際は I カラー以下のランクで査定する事をお勧めします。



写真で見るダイヤモンドグレード[クラリティー]

クラリティー：買取の際の注意点

- 枠に付いているものがほとんどです。爪で隠れてしまっているキズなどはルーペでは見えません。査定する時は慎重をお願いします。
- クラリティーを見逃しやすい“SIクラス”、“Iクラス”は特に注意が必要です。
- 全体的にくもっていたり、肉眼でキズが見えるものは評価を低くします。また、レーザードリルホールのように人為的に穴を開けた場合やダイヤが欠けてしまっている場合も評価を低くします。

VVS 1



VVS 2



VS 1



VS 2



VS 2 (タイプ 2)



SI 1



SI 1 (タイプ 2)



SI 2



SI 2 (タイプ 2)



I 2



I 2 (タイプ 2)



「I」クラスのクラリティー

「I」のクラリティーは非常に幅が広く、査定価格を正確に出すことが難しい場合があります。鑑定書のレベルや年代によって下記レベル1、2の「I 1」が「SI 2」と評価される事もあるので注意が必要です。

レベル1 SI3

特徴

- 肉眼で見えづらい内包物(SI2に近い)
- 輝き(テリ)がある
- テーブル面に内包物がない

価格目安

1ct未満の場合SI2価格の **-30%**

1ct以上の場合SI2価格の **-30%**



レベル2 I1+

特徴

- 肉眼で見えづらい内包物
- 輝き(テリ)がある

価格目安

1ct未満の場合SI2価格の **-40%**

1ct以上の場合SI2価格の **-40%**



レベル3 I1

特徴

- はっきり肉眼で見える内包物
- 輝き(テリ)がある

価格目安

1ct未満の場合SI2価格の **-50%**

1ct以上の場合SI2価格の **-50%**



レベル4 I1-

特徴

- はっきり肉眼で見える内包物
- 内包物の影響で輝きが弱い

価格目安

1ct未満の場合SI2価格の **-60%**

1ct以上の場合SI2価格の **-70%**



レベル5 I2

特徴

- はっきり肉眼で見える内包物
- 内包物の影響で輝きがない

価格目安

1ct未満の場合SI2価格の **-80%**

1ct以上の場合SI2価格の **-90%**



写真で見るダイヤモンドグレード[カット]

カット：買取の際の注意点

- 正面からみてテーブル面の広さ、パビリオンの深さや対称性などを注意深く見てください。
- カット表記で現在使われていない「MEDIUM」やカットグレード表記の無いものはFAIR 扱い
- 表面のキズやキューレットの欠けがあるものは評価を低くします。
- ハートシェイプやオーバル等のファンシーカットは通常カット評価はしません



GOOD (タイプ2)



GOOD (タイプ3)



FAIR



FAIR



FAIR (タイプ2)



FAIR (タイプ2)



P00R



P00R



ハートシェイプ



オーバル



プリンセス



エメラルド



▽ 4C 以外のポイント

ダイヤモンドは 4C によっておおまかに特徴、価格を出すことが可能ですが 4C 以外のポイントを確認することで正確で誠実な査定が可能になります。

■ 蛍光性 (Fluorescence)

「蛍光性」とはダイヤモンドに紫外線を当てた時に何色に見えたかを査定するもので、査定の際には UV ライトを使用します。蛍光性の評価については、“NONE” (= 蛍光性がない) が評価が高く、蛍光性が強いほどマイナス評価となります。STRONG や VERY STRONG のダイヤモンドは輝きが弱く濁って見える事が多くあります。



※上記以外の蛍光性に “YELLOWISH GREEN” のあり、評価は “STRONG BLUE” 程度です。

※現在は使われていない “WEAK BLUE”、“BLUE” 等の評価は “FAINT”、“MEDIUM BLUE” 程度です。

■ 加工処理

近年、クラリティーやカラーを改変する加工技術が開発されています。下記の2つは代表的な加工処理で、評価もマイナスになります。

● レーザードリルホール (LDH)

ダイヤモンドにレーザーで穴をあけ内包物を隠す方法

● HTPT 処理 (高温高圧処理)

ダイヤモンドに高温高圧を加えることで色を飛ばし無色に近づける方法



レーザードリルホール

■ サイズ (直径) の目安

カラット (重さ) が大きくなるにつれ直径の目安も増えていきます。従ってカラットがあってもダイヤモンド正面の直径が小さいと評価は下がります。

ct (カラット)	0.2	0.25	0.3	0.4	0.5	0.7	1.0	1.5	2.0	3.0
mm (直径)	3.64	4.0	4.2	4.6	4.9	5.5	6.2	7.2	7.9	9.1



2つのダイヤモンドは同カラットだが右のダイヤモンドは厚みがある為、左のダイヤモンドに比べサイズ (直径) が小さい。

▼ 肉眼レベルで判断できる評価の低いダイヤ

下記のような特徴のあるものは査定評価が著しく低い場合があります。

● 評価が低い特徴

全体的に曇っている



ブラウン系(カラー)



欠け



キズが多く輝きがない



ガードルが極端に厚い



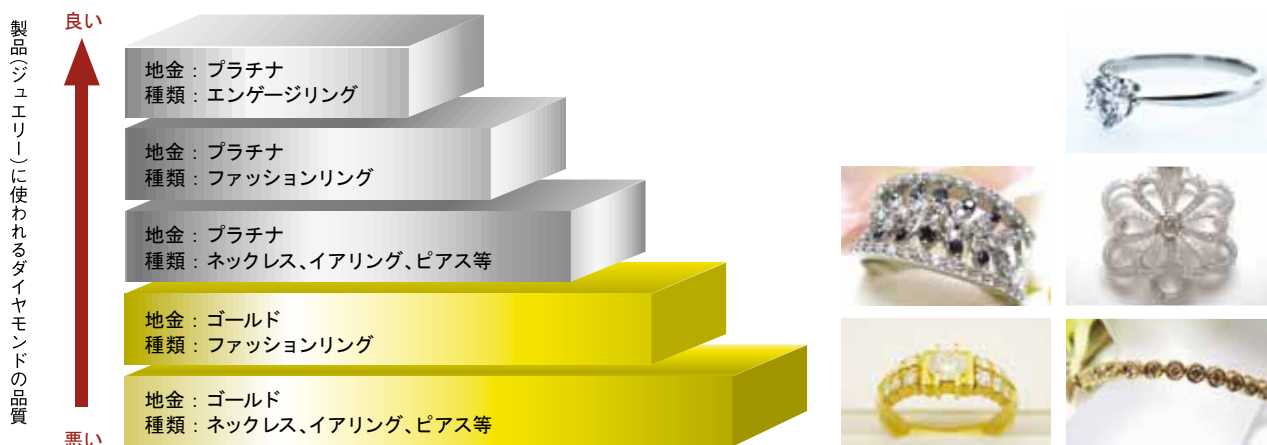
※マイナス査定の基準はダイヤモンドの状態によって変動します。

▽ 自己査定(鑑定書なしの場合)の見方

■ 製品(ジュエリー)に使われるダイヤモンドの品質の目安

鑑定書がない場合の製品(ジュエリー)の考え方として、下記グラフを目安にしてください。

一般的にプラチナ枠のエンゲージ(婚約指輪)に止まっているダイヤの品質は良いとされています。



※一流海外ブランドの製品は上記のグラフには含まれません。

※ゴールド地金は下記も含みます。

・ホワイトゴールド・イエローゴールド・ピンクゴールド

■ 自己査定のポイント

別紙価格表参照

1. ダイヤの真贋を判定

- ルーペで内包物の有無と輝きがあるかを確認。
- ファセットエッジ(面と面の境界線)がシャープか否かを確認。
- ダイヤモンドテスターで確認。



ダイヤモンド



ジルコン(イミテーション)

2. ダイヤの石目/製品の刻印を確認

- 枠の裏側の刻印を確認
- ※石目がないもの、地金がシルバー系は偽物の可能性があります。



3. ダイヤの色を確認

- 白系かその他の色(ピンク、ブラウン、ブラック等)
- 白系であれば無色か黄色っぽいかを判断



ピンク(天然)



ブラック(天然)



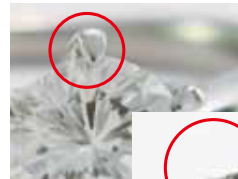
左から D G J M カラー

4. クラリティやキズを確認

- ルーペまたは肉眼でキズ、クラリティを確認。
- 爪で留まっている部分が欠けてないかを確認。



肉眼で見てもキズが見える
輝きがない(光が反射しない)



爪留部分の欠けをチェック

5. 1~4で得た情報と、お客様から「製品の情報」をお聞きし査定のポイントにしましょう。

* 製品の情報は P. 40 を参照ください。

▽ メレーダイヤの買取方法

一般的に 0.1ct 以下のダイヤを指すメレーダイヤですが、思わぬ利益に結びつくことがあります。メレーダイヤも鑑定書付きのダイヤと同じように 4C が査定基準になりますが鑑定書はつきませんので自己査定での判断になります。

■ メレーのランク目安

クラリティ評価		+	カラー評価	= 査定
ルーペで見てもキズが見えない	VS 以上			
ルーペで見ても少々キズ有り	S1 クラス			
ルーペで見てもキズが多い	I クラス			



白メレー系



ラージ系 0.1ct アップ



ブラウン系



テーパー、カレー、バケット系



ナッツ、くもり系 I1 クラス以下



プラチナ枠で婚約指輪の脇石はランクが高く、査定価格も高めです。



ゴールド枠はキレイでも色がわからないので評価は低めです。



見た目では明らかにブラウン色だとか、ルーペで見てもキズが見える場合査定価格は下がります。